

2024年3月期 第2四半期 決算説明会用資料

2023年11月21日



レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード（6272）

- 1. 2023年度 上期連結決算概況**
- 2. 2023年度 通期連結業績予想**

1. 2023年度 上期連結決算概況

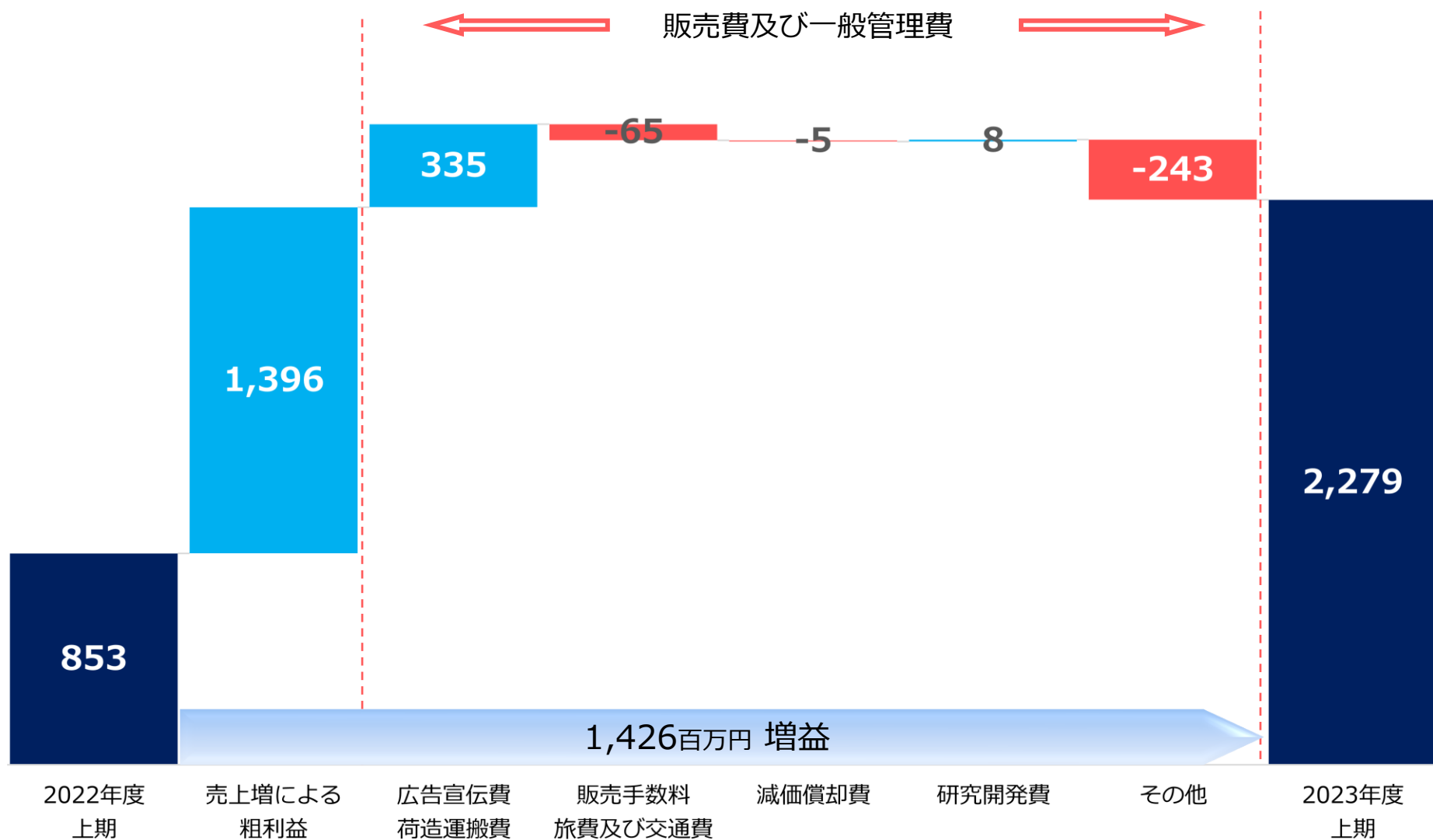
2. 2023年度 通期連結業績予想

◆ 連結計算書サマリー（上期）

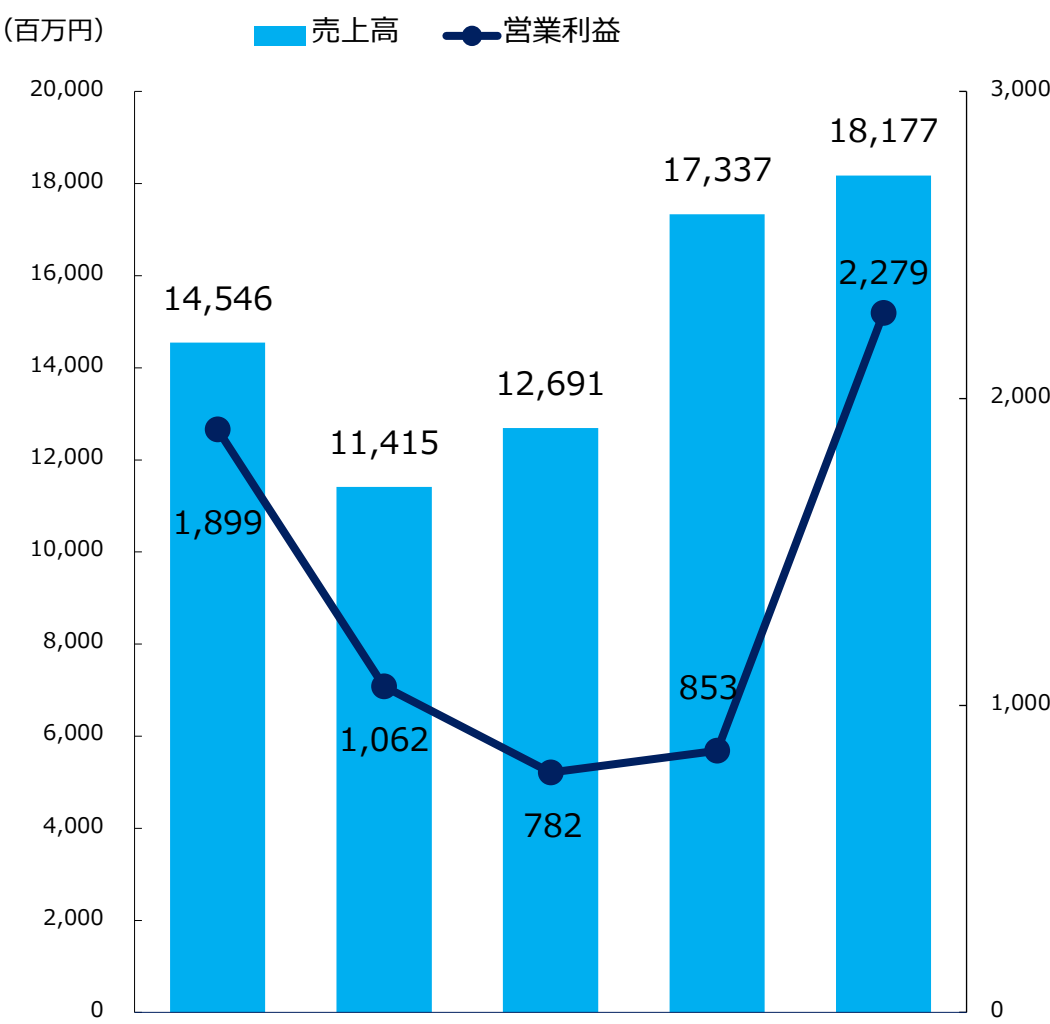
(百万円)	2022年度 上期実績	2023年度 上期計画 (2023年5月22日)	2023年度 上期実績	増減率
売上高	17,337	16,600	18,177	4.8 %
営業利益	853	1,550	2,279	167.2 %
経常利益	992	1,610	2,362	138.1 %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	821	1,270	1,880	129.0 %
1株当たり 四半期純利益	30.63 円	47.38 円	70.09 円	—
中間配当	12.00 円	15.00 円	20.00 円	—
期中平均為替レート	USドル=133.97円 ユーロ=138.73円	USドル=125.00円 ユーロ=135.00円	USドル=140.99円 ユーロ=153.38円	—

◆ 営業利益増減（上期）

（百万円）

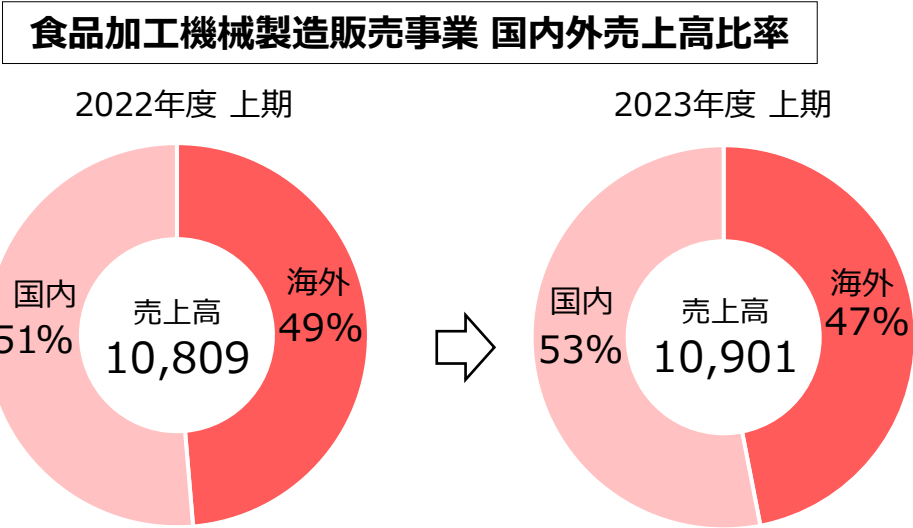
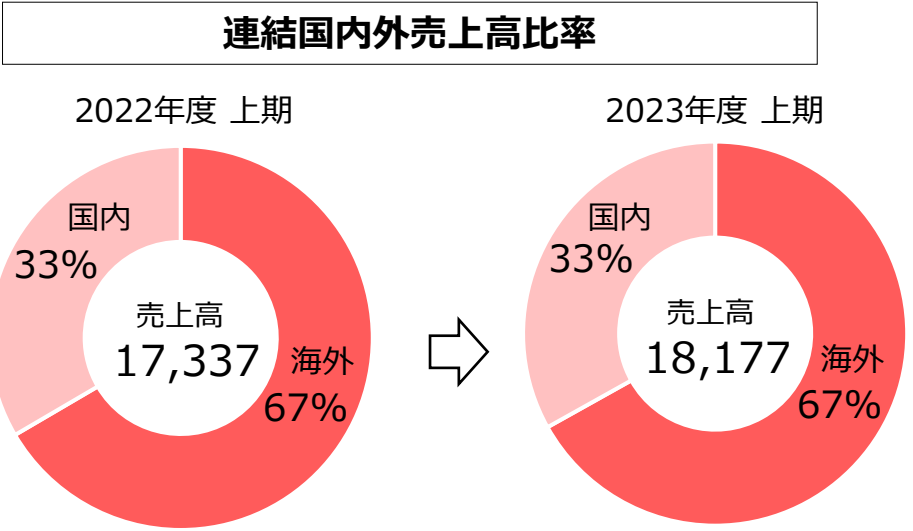


◆ 過去5年の業績推移（上期）



	2019上期	2020上期	2021上期	2022上期	2023上期
USドル	108.63 円	106.92 円	109.80 円	133.97 円	140.99 円
ユーロ	121.42 円	121.29 円	130.90 円	138.73 円	153.38 円

(百万円)



◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》（上期）

食品加工機械製造販売事業

省人・自動化に向けた設備投資需要により、売上高、セグメント利益ともに増加。

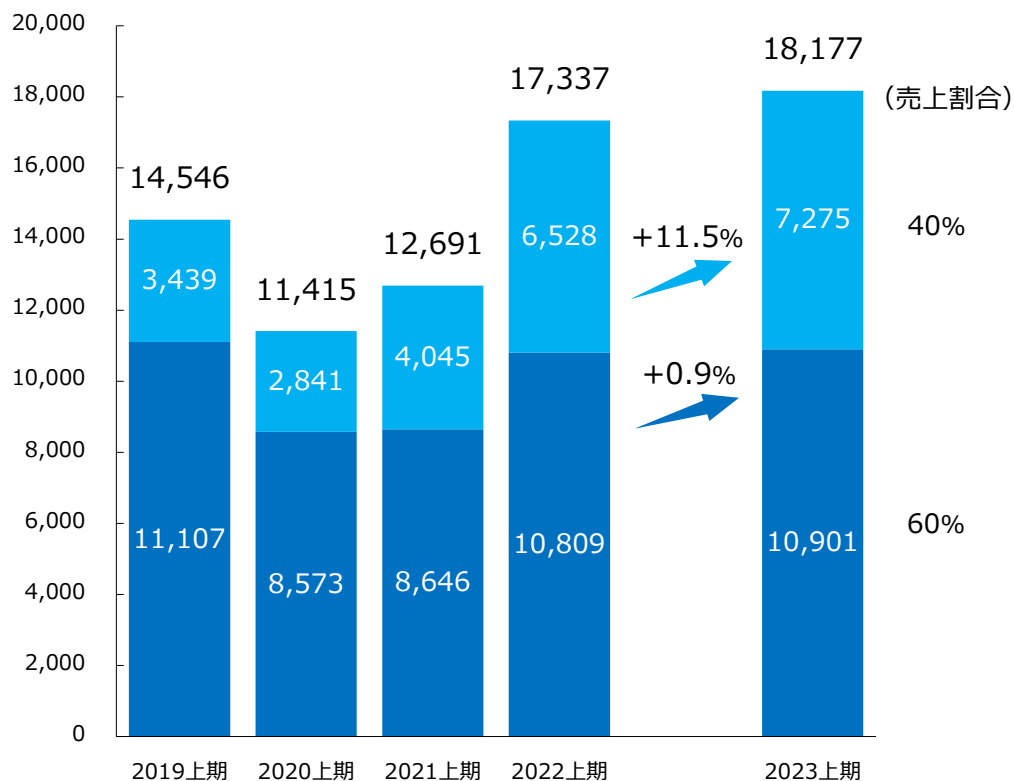
食品製造販売事業

米国において、これまで実施した値上げの効果や主力製品の売上増加により売上高、セグメント利益ともに増加。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業

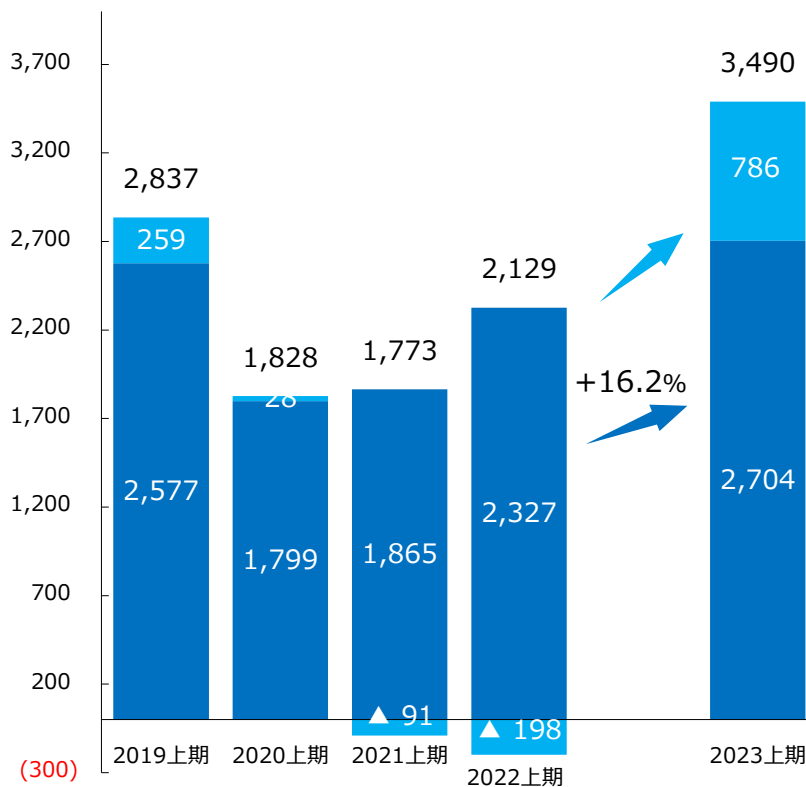
（百万円）

売上高



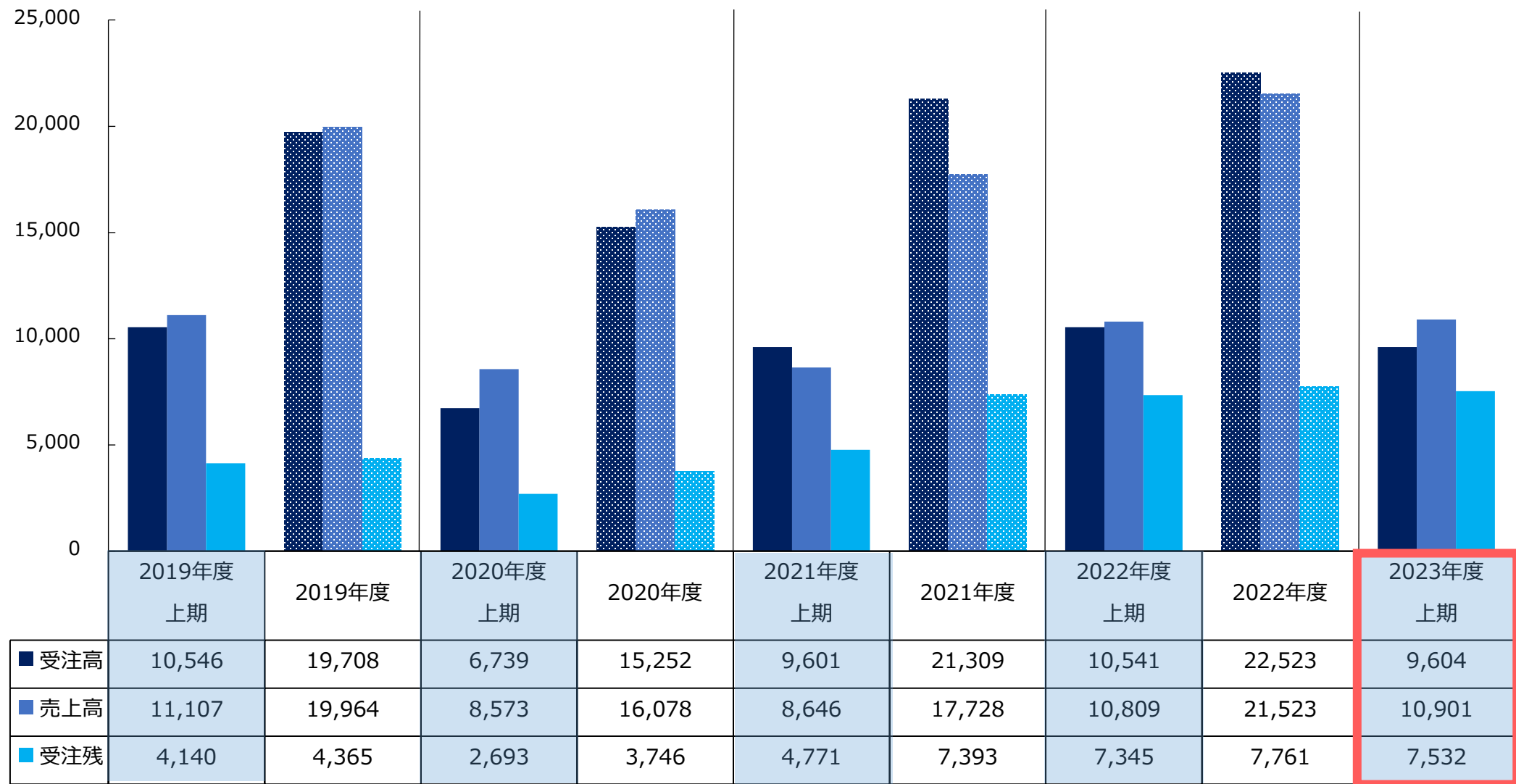
（百万円）

セグメント利益



◆ 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移

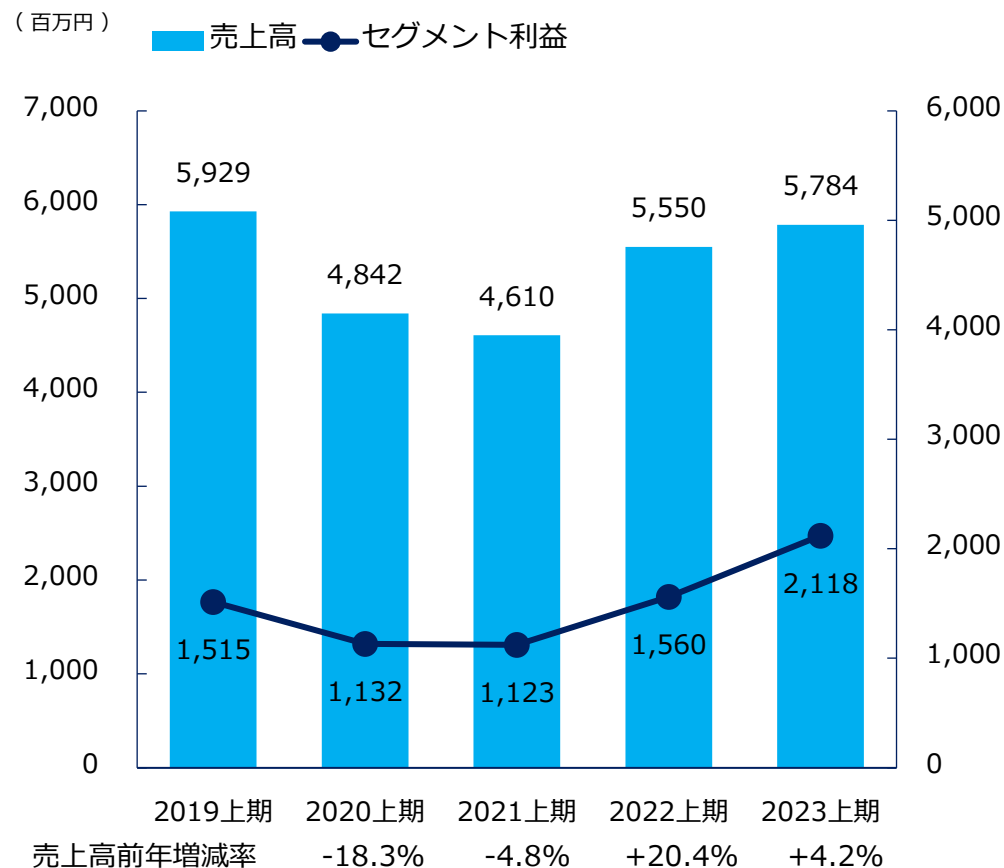
(百万円)



◆ 食品加工機械製造販売事業 日本 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

家庭内消費の増加や販売価格の見直し効果などにより自動化ライン、包あん機等ともに案件が増え、増収増益。

売上高・セグメント利益



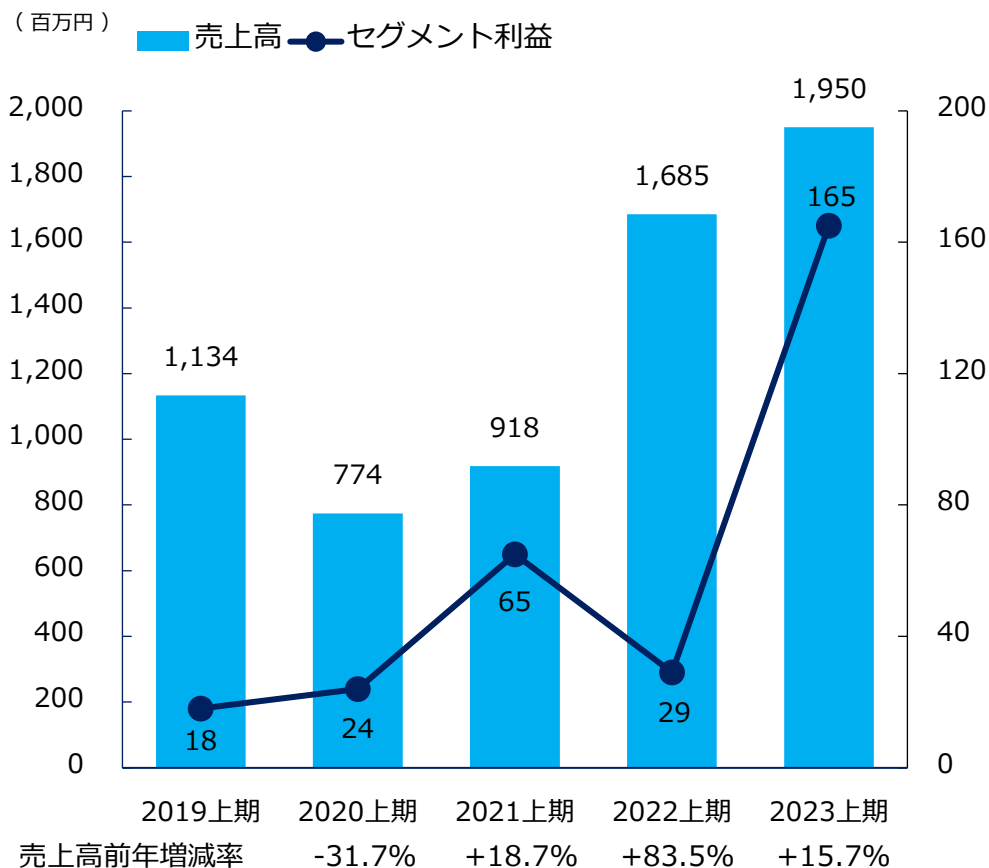
主な増減要因

- 大手ベーカリーの設備投資需要が堅調に推移したものの、売り上げはわずかに減少
- 包あん機は和洋菓子の小売り、卸向けに売り上げが増加
- 生産現場の人手不足を背景に包あん機と周辺機器のセット販売が売り上げ増加を後押し

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

人手不足による人件費の高騰により食品生産自動化へのニーズが加速し、売り上げが増加。

売上高・セグメント利益



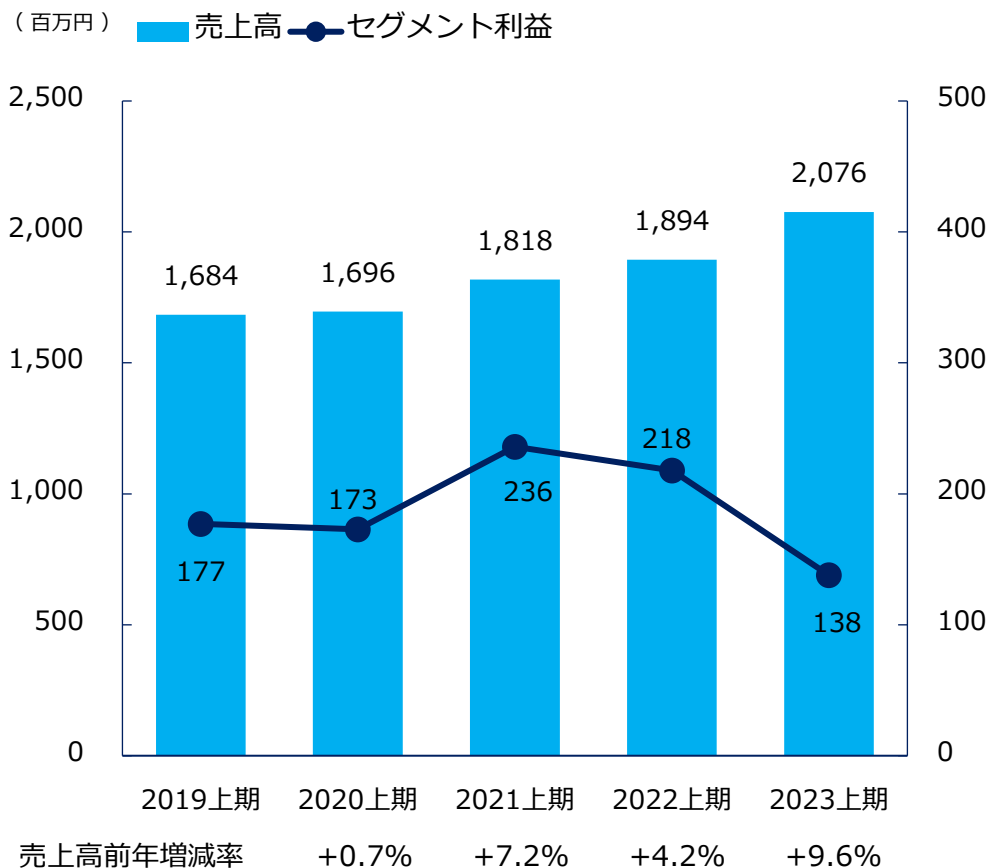
主な増減要因

- 生産体制の合理化需要の高まりおよび円安の影響により、売り上げが増加
- 自動化ラインはアルチザンブレッドラインなど大型製パンラインの機械売上が増加
- 包あん機など食品成形機の売り上げは減少
- 部品および修理売り上げは増加
- 展示会などの販管費が減少した事により利益は増加

◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

EU圏外の国々で設備投資が進み、製パンライン機の機械売り上げが増加。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

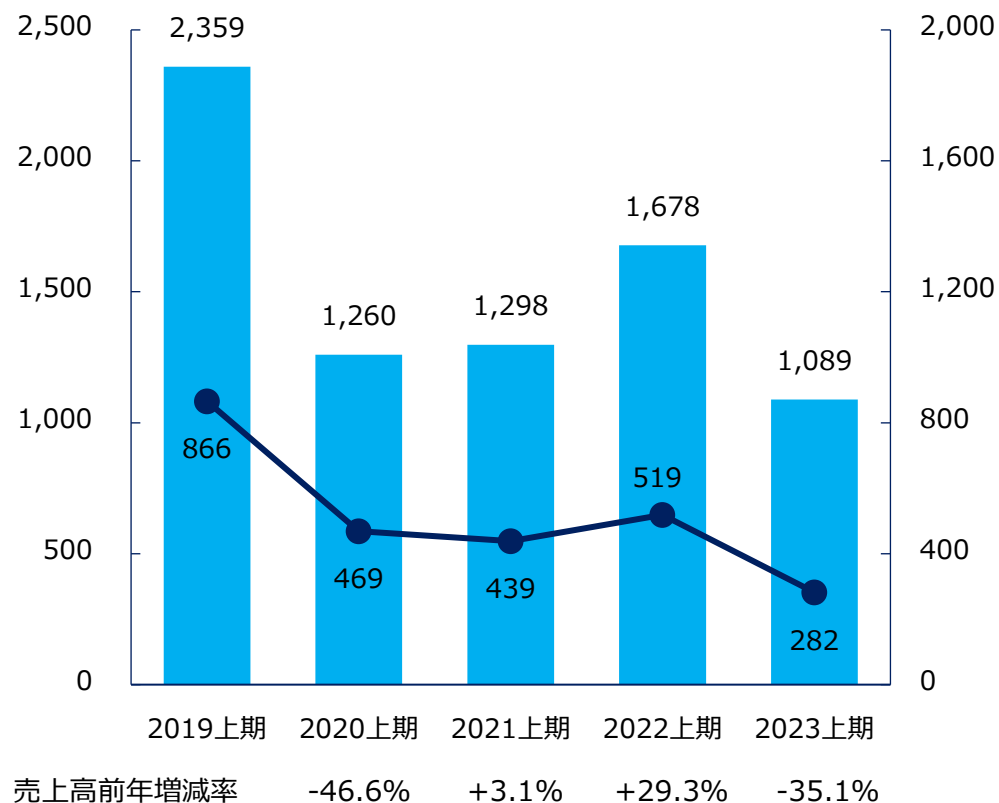
- 自動化ラインでは、トルコやスイス、イギリスなどEU圏外の国々への販売により売上が増加
- 包あん機は長期化するウクライナ問題の影響を受けて、欧州中央圏で投資控えが見られ、売上が減少
- 部品や修理などの売り上げは増加
- 大型展示会の出展など販管費の増加により利益は36.5%減少

◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

中国のゼロコロナ政策解除後の景気回復遅れから設備投資の動きが鈍化し機械販売が減少。

売上高・セグメント利益

（百万円） ■ 売上高 ● セグメント利益

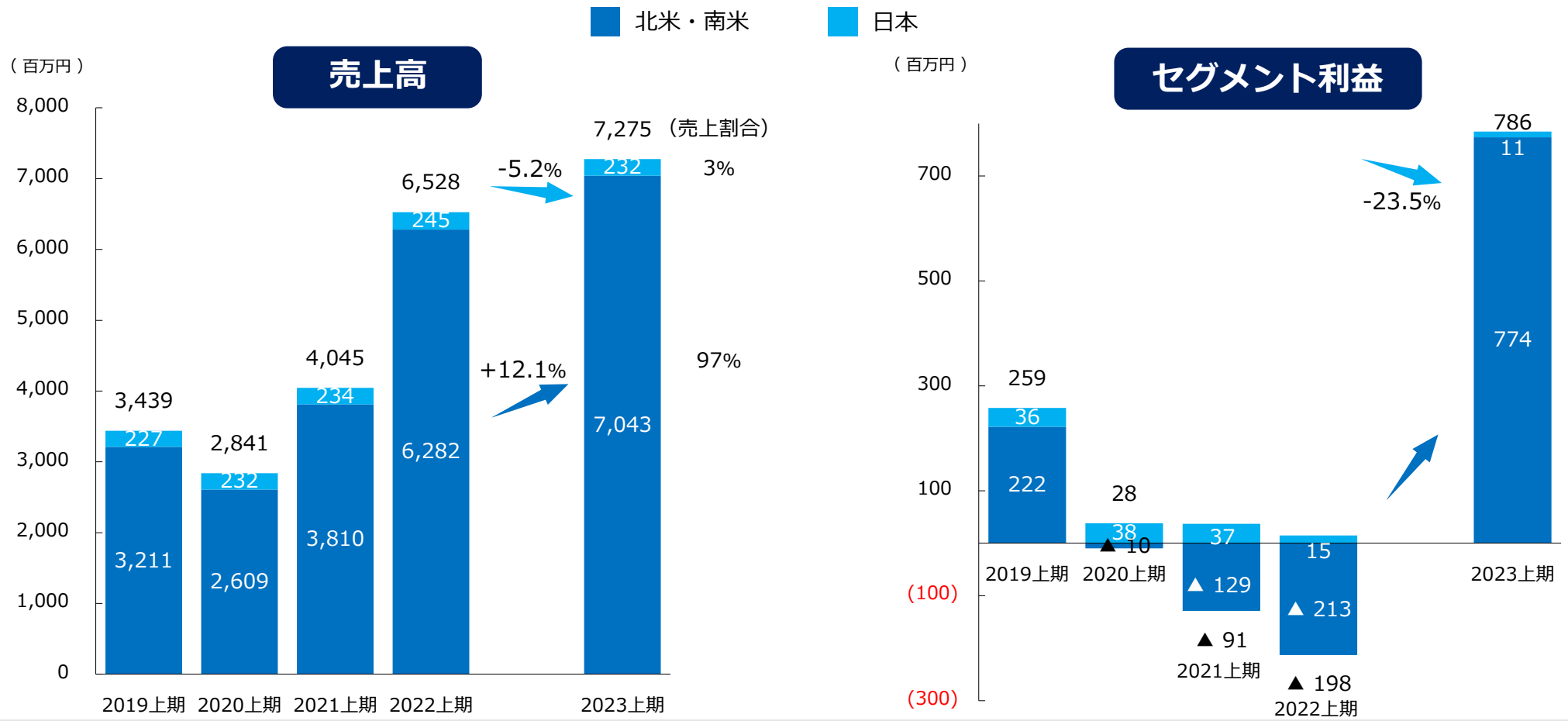


主な増減要因

- 中国におけるベーカリー市場では、スーパーマーケットの食パン、菓子パンの販売が伸びず、製パンラインの販売が減少
- 包あん機は洋菓子などの売れ行きは好調であったものの、月餅の販売不振の影響により売上が減少
- 修理その他の部品販売は好調で、メンテナンスの売り上げは増加

◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》（上期）

売上高	■北米・南米	パイ製品やクロワッサンなど主力製品の需要が継続し売上が増加。
	■日本	猛暑によるパン需要の落ち込みにより売上げが減少。
セグメント利益	■北米・南米	原材料費や運送費などのコストダウンやこれまで実施した値上げの効果によりプラス。
	■日本	原材料の高騰などにより利益減少。



◆ 連結貸借対照表サマリー（上期）

(百万円)	2022年度上期		2023年度上期			
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	39,164	100%	43,253	100%	10.4%	—
流動資産	21,428	54.7%	24,899	57.6%	16.2%	● 受取手形及び売掛金の増加 ● 商品及び製品の増加 など
固定資産	17,736	45.3%	18,353	42.4%	3.5%	● 円安による有形固定資産の増加 ● 投資有価証券の時価評価額の増加 など
負債合計	8,815	22.5%	9,121	21.1%	3.5%	—
流動負債	7,000	17.9%	7,284	16.8%	4.1%	● 前受金の増加 ● 未払法人税等の減少 など
固定負債	1,815	4.6%	1,837	4.2%	1.2%	● 長期借入金の減少 ● 繰延税金負債の増加
純資産合計	30,348	77.5%	34,131	78.9%	12.5%	● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加
負債純資産合計	39,164	100%	43,253	100%	10.4%	—

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー（上期）

(百万円)	2022年度上期	2023年度上期	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	10,000	11,440	—
営業活動によるCF	148	1,125	● 税金等調整前四半期純利益 2,362 ● 売上債権 ▲663 ● 棚卸資産 ▲533 ● その他の流動負債 141
投資活動によるCF	▲472	▲428	● 有形固定資産の取得 ▲319
財務活動によるCF	▲284	▲552	● 長期借入れによる収入 100 ● 長期借入金の返済 ▲162 ● 配当金の支払 ▲508
現金及び現金同等物の増減額	▲371	442	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,628	11,882	—

1. 2023年度 上期連結決算概況

2. 2023年度 通期連結業績予想

◆ 2023年度 通期連結業績予想

増収・増益を見込むが、中国の経済回復の遅れや長期化するウクライナ問題もあり、先行きの不透明感が強い。

(百万円)	2022年度 実績	2023年度 予想 (2023年5月22日)	2023年度 新予想 (2023年11月10日)	前年同期比	増減率
売上高	35,269	34,800	37,010	+ 1,741	4.9%
売上原価	20,703	19,640	20,350	- 353	-1.7%
販管費	11,558	11,670	12,080	+ 522	4.5%
営業利益	3,007	3,450	4,580	+ 1,573	52.3%
経常利益	3,209	3,540	4,740	+ 1,531	47.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,737	2,700	3,600	+ 863	31.5%
期中平均為替レート	USドル=135.47 円 ユーロ=140.96 円	—	—	—	—
想定為替レート	—	USドル=125.00 円 ユーロ=135.00 円	USドル=140.00 円 ユーロ=153.00 円	—	—

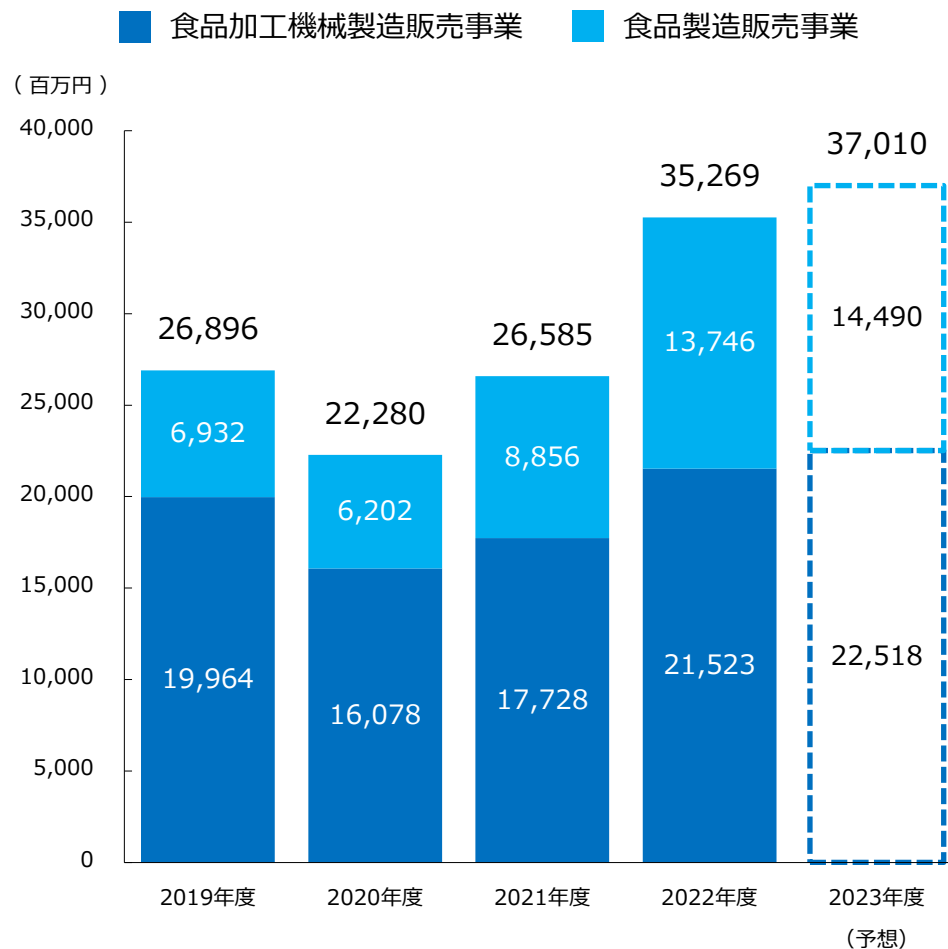
◆ 業績予想 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高 》

食品加工機械製造販売事業

人件費高騰に対応した自動化の設備投資需要により、売上げが増加すると予測。

食品製造販売事業

米国の需要拡大により、オレンジベーカーリーを主体に売上げ増加。



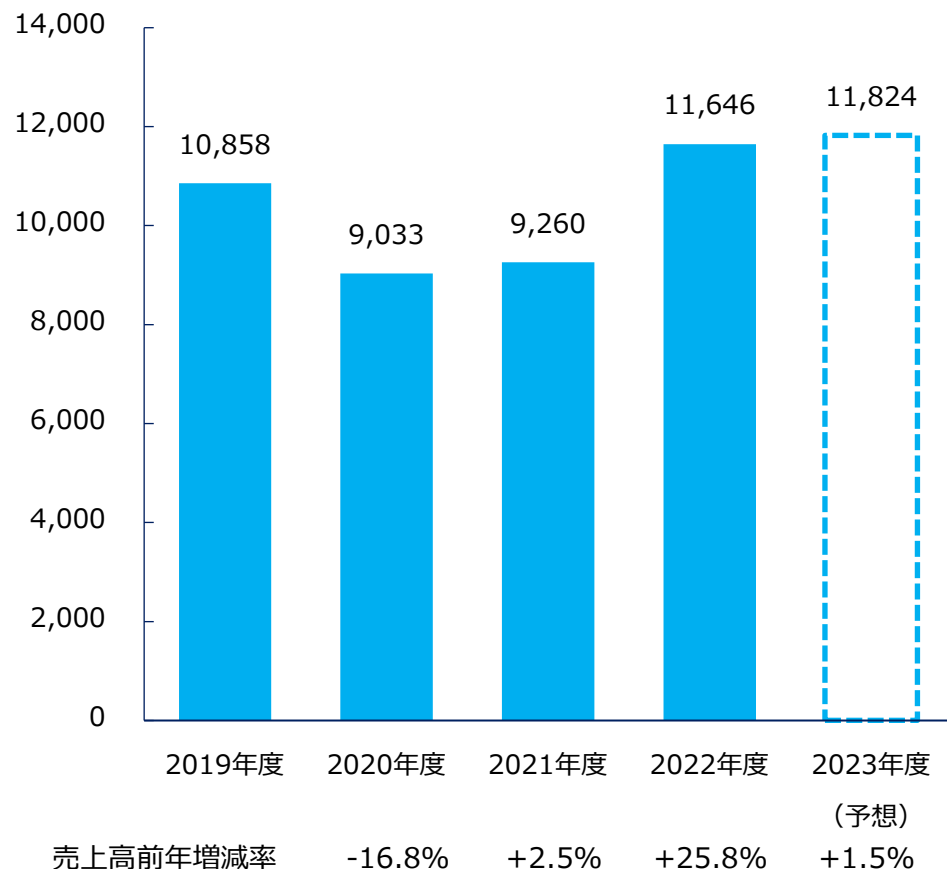
食品製造販売事業 +5.4% (予想)
 食品加工機械製造販売事業 +4.6% (予想)

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 日本《過去5年（通期） 売上高》

スーパー・コンビニ、食肉・冷凍食品市場向けで製パンラインおよび包あん機の販売増加。

売上高

(百万円)



主な増減要因

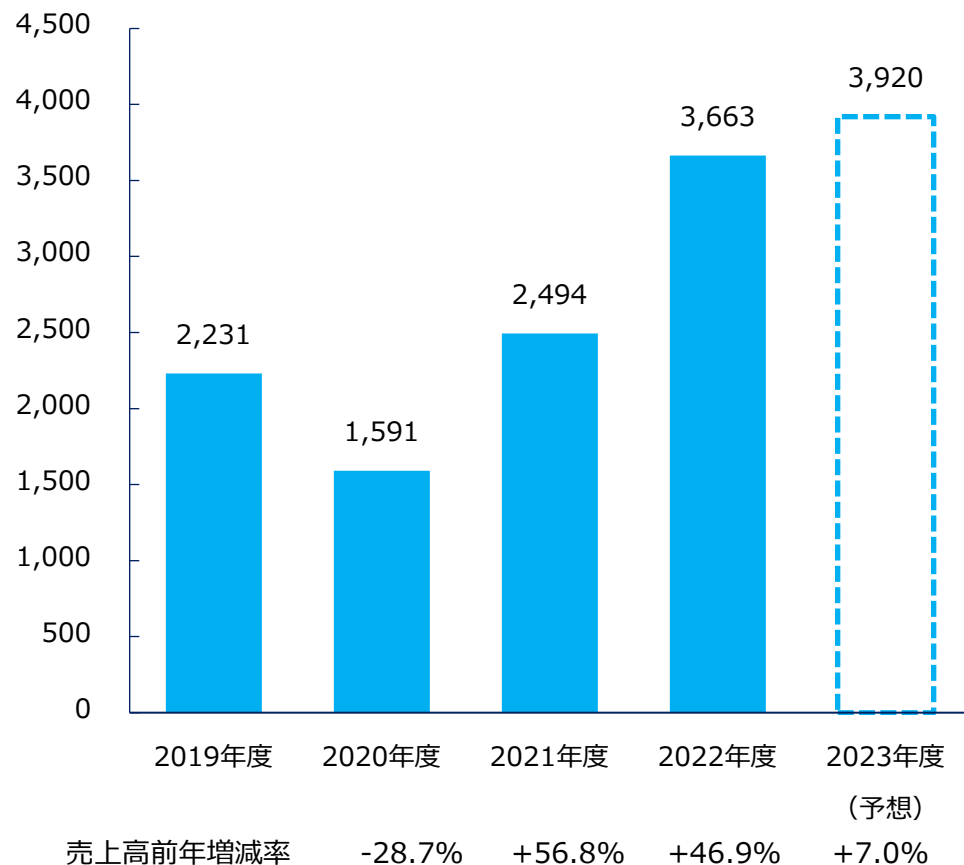
- スーパー向けパンおよび菓子パン生産ラインの合理化や、食パン生産設備など大型ラインのターンキー受注が増えてきている
- コンビニ・スーパー卸売や食肉・冷凍食品業界からの受注が増加
- 国内においては、観光土産業界の回復が見込まれることから売り上げが増加すると予測

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年（通期） 売上高》

省人化に向けた投資が継続、自動化ラインおよび食品成形機の販売がともに増加と推測。

売上高

(百万円)



主な増減要因

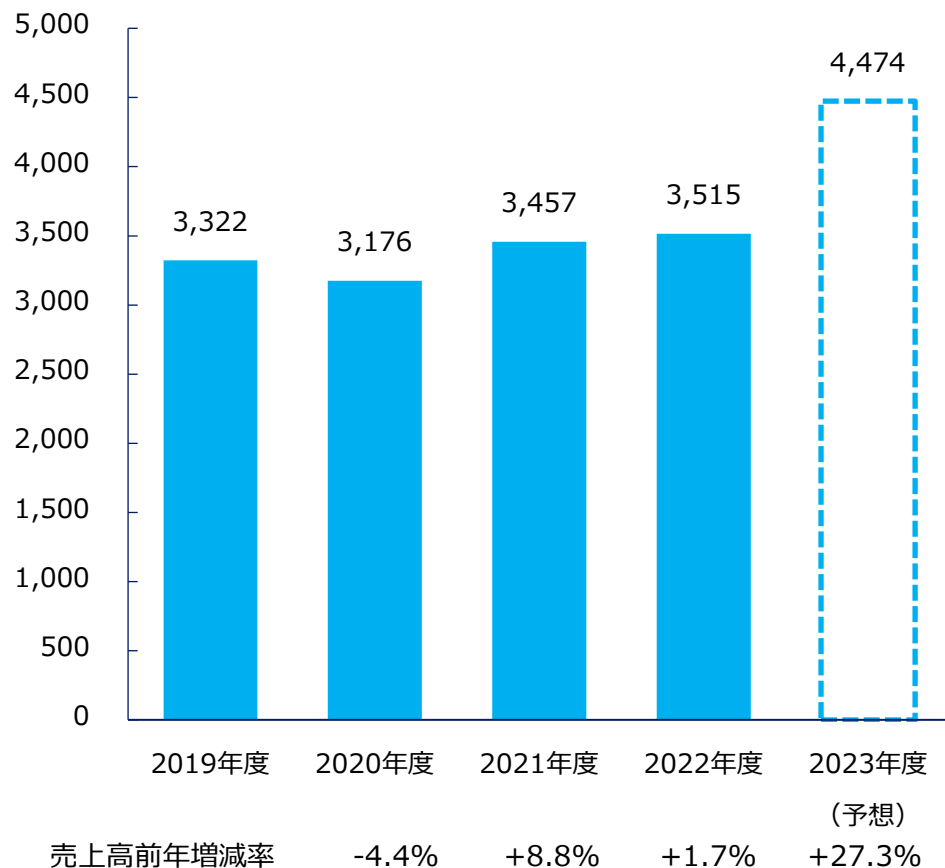
- 労働力不足や生産コスト削減に向けた設備投資の機運が継続
- 自動化ラインでは、大手製パンベーカリーやアルチザンベーカリーを対象とした市場の活性化
- 包あん機の需要は、スーパー向けの冷凍・チルド製品や、クッキー・洋菓子などを生産する設備投資が継続

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（通期） 売上高》

ヨーロッパ主要国への小型製パン機の販売は回復傾向。ペストリーラインの販売拡大の為に営業活動の強化

売上高

(百万円)



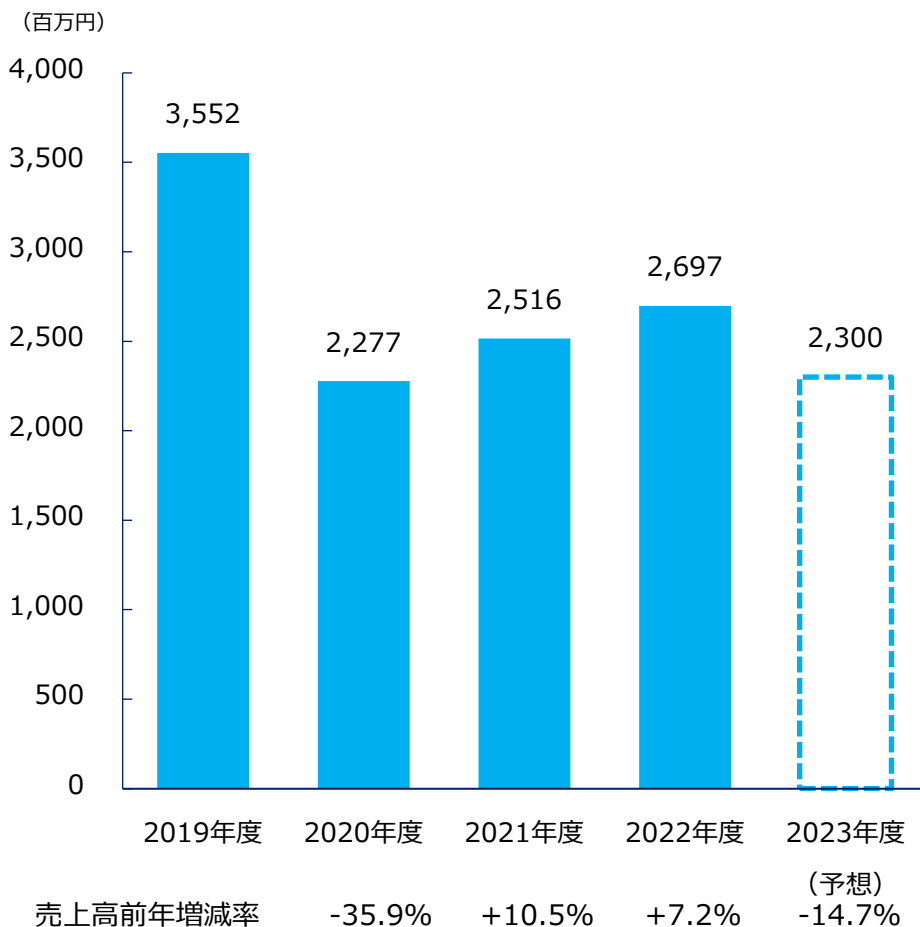
主な増減要因

- 主力機種である小型製パン機においては、ドイツ、フランス、イギリスなど主要国からの需要が回復
- 自動化ラインは、ペストリーラインの販売を強化
- スーパー向けのスコッチエッグやミートボール等の調理食品やクッキーなどを生産する包あん機は売上げ増加と推測

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 アジア 《過去5年（通期） 売上高》

インドネシア、タイなど東南アジアで販売が順調に推移するが、中国での販売落ち込みが影響し、対前年より売り上げが減少と予測。

売上高



主な増減要因

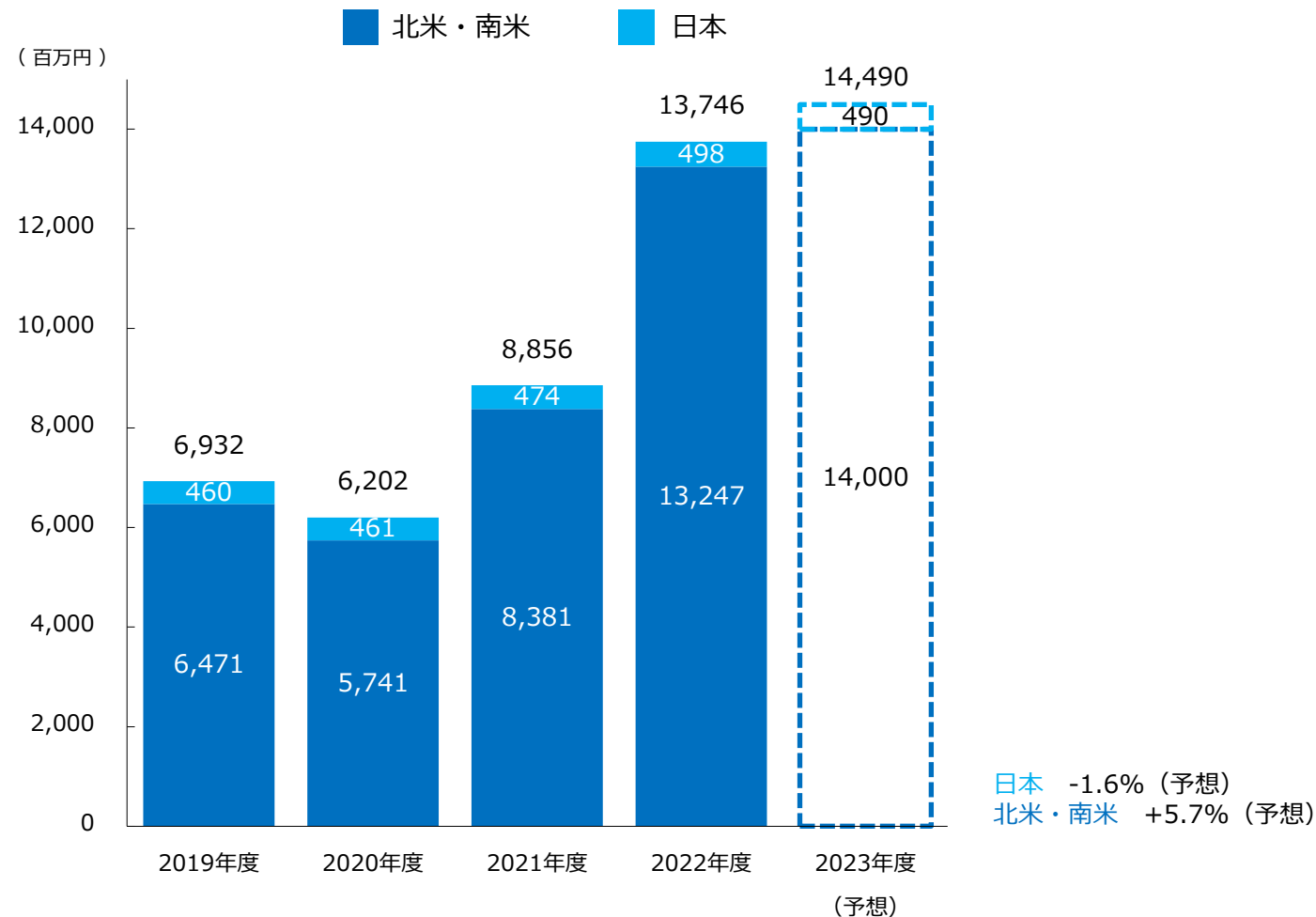
- 中国において、食パンや菓子パンの売上げ回復が想定していたよりも遅れており、また月餅需要の低迷が続いていることから、製パンライン、包あん機とも売り上げ減と予測。
- 東南アジア市場では、インドネシア、タイ、シンガポールなどで自動化ラインおよび包あん機の販売が順調に推移。
- インドにおいては、自動化ラインの販売は厳しい状況が予想され、菓子市場への包あん機販売を拡大する。

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業 《過去5年（通期） 地域別売上高

売上高

■ 北米・南米
■ 日本

大型スーパーやレストラン向け商品の需要が順調に推移すると予測。
小規模ベーカリーへの販売が厳しくなる予想から売上げは昨年同等と予測。

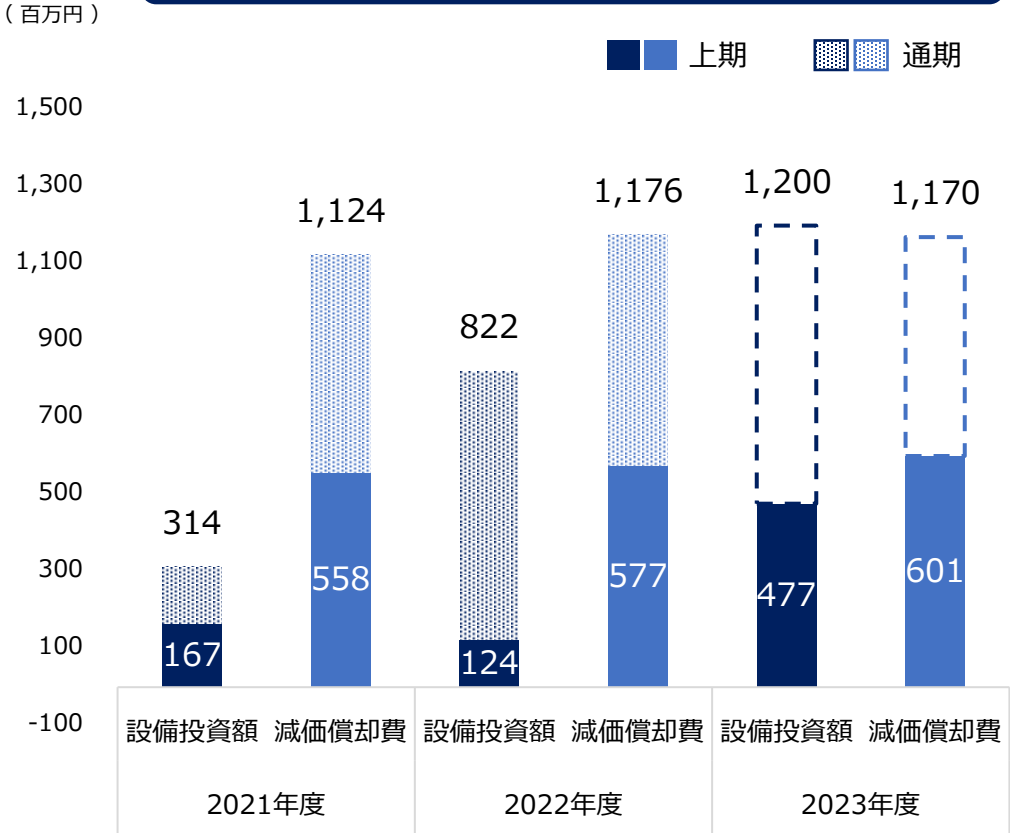


◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費

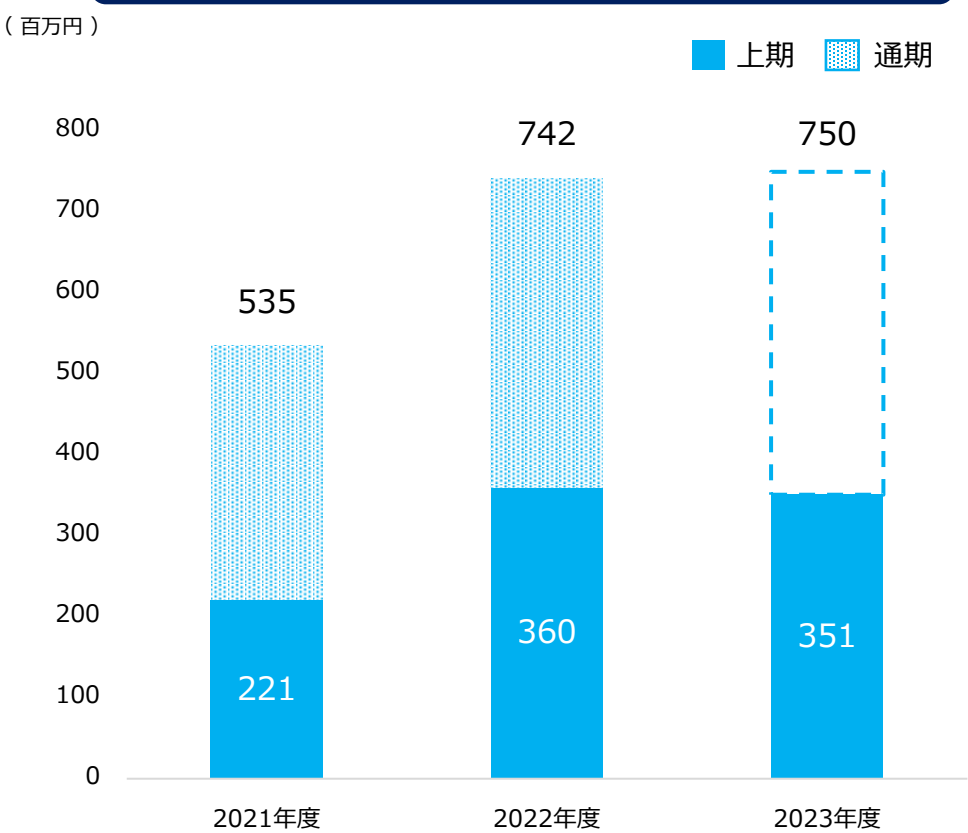
2023年度

上期設備投資：上河内工場のシステム導入費や
オレンジベーカーリーの生産機械の導入費等

設備投資額・減価償却費

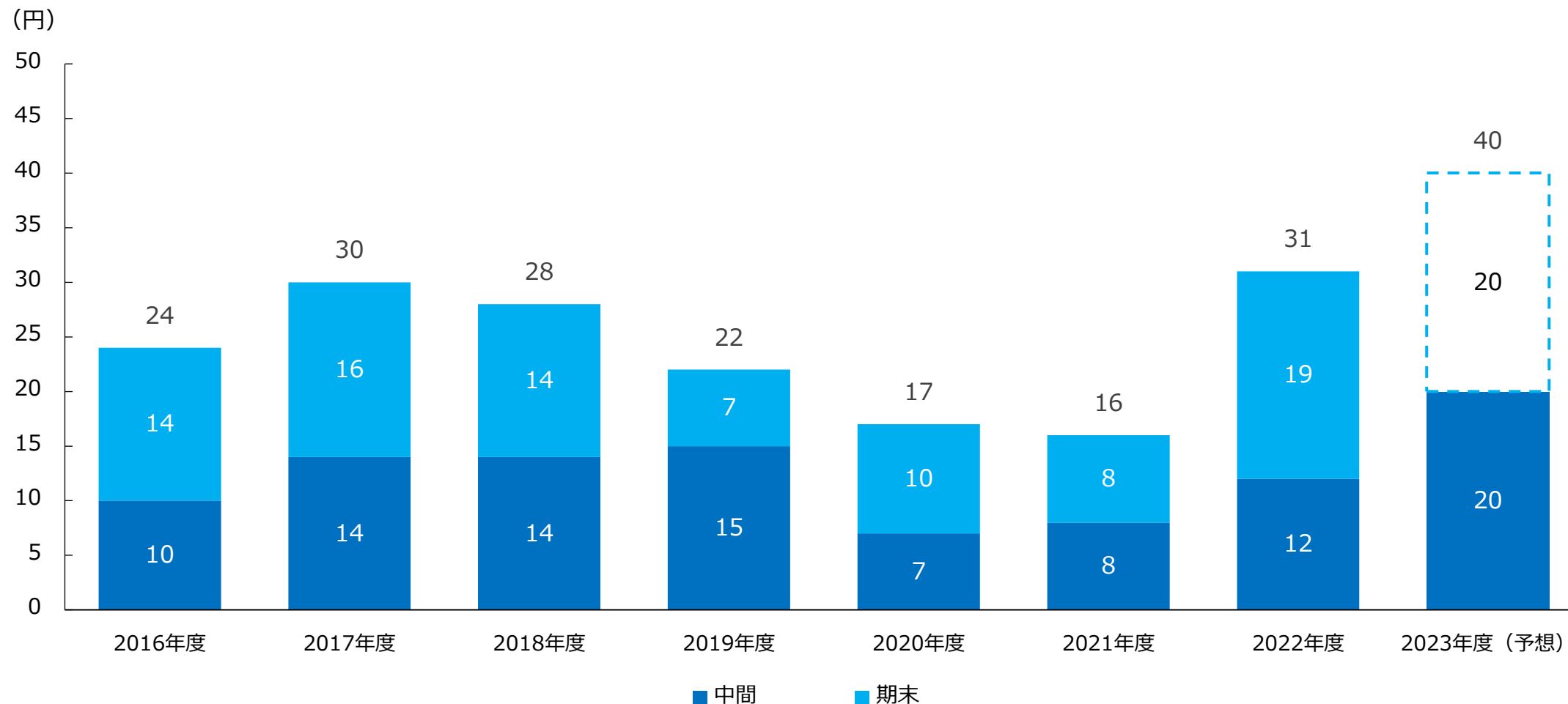


研究開発費



◆ 配当方針

2014年度に連結配当性向の目標を30%とし、業績等を総合的に勘案し継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。



社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（故 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的リスクや不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。